

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国公民科・社会科教育研究会

(代表者 大山 敏 会員数 約1,000人)

T E L 03-3958-0121

1 前 文

出題内容は学習指導要領に掲げられた教科・科目のねらいおよび内容におおむねそくしており、基礎・基本を重視したものとなっている。平易な問を中心に高校生が学習した知識や涵養した思考力に基づき、考えて解いていく工夫が施されている標準的な問題である。ここでは後期中等教育を与える現場からの意見と評価を申し述べる。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

全体をとおして質・量ともに共通テスト初年度となった昨年度と同程度である。「倫理」、「政治・経済」のバランスもとれており、安定した出題である。読ませる量が多いのが特徴だが、単に知識を問うのではなく、思考力判断力を問う以上、避けられないだろう。多様な意見を対話によって合意形成を図るという公民科学習の性格でもある。学習指導要領にのっとり、基礎的基本的な知識を確認する問や確かな基礎的基本的な知識に基づき資料等を読み込み「倫理」や「政治・経済」で学んだ思考力や判断力を駆使して考えて解く問を中心に構成されている。平易でありながら考えて解く工夫がなされている点は評価されるが、リード文と問との有機的な結びつきが薄く、各問だけ読んで解いても正答が得られる問が多く残念だ。しかし、なるべく正しい選択肢や最も適当な選択肢を選ぶように問を設けているなど留意されている。「倫理」学習の成果としての知識がなくても、いわば国語力で解ける問が一定程度存在することについては、賛否両論がある。とはいえ、「倫理」学習で涵養された思考力判断力はどこまでが公民科学習の成果であり、どこまでが国語科学習の成果であるか、判断はつかない以上、国語力を問うているのではないかと批判されても読解力を問う必要はある。

以下、各設問について意見と評価を申し述べる。

第1問 源流思想について、基礎的基本的な知識と、確かな知識に基づき、資料読解等による思考力判断力を問う。

問1 愛を主題にギリシア思想と中国思想についての基礎的基本的な知識を問う。①墨子が説くのは兼愛であり、別愛は墨子が家族愛を重んじる儒教の教えを批判して呼んだことから誤文。③神のみが真に知を愛する者たりうとするのは誤り。④アイデアとエロースの関係が誤り。

問2 古典や聖典に関する基礎的基本的な知識を問う。①ギリシア神話についての正文。②イエスの教えとユダヤ教の律法との関係。③韓非子をはじめとする法家思想とは反対の説明がなされている。④イスラームの六信に聖遷は含まれないので誤り。これら4つをひとつの問いで示すことで高校生にどのようなメッセージを送ろうというのか。

問3 アウグスティヌスの思想について基礎的基本的な知識と資料読解力を確認する。

問4 原始仏教について基礎的基本的な知識と資料読解力を確認する。

第2問 日本思想について、基礎的基本的な知識と、確かな知識に基づき、資料読解等による思考力判断力を問う。

問1 神道と仏教の関係について基礎的基本的な知識を問う。イは仏と神の位置付けが逆になっているので誤文とわかる。ウは大日本帝国における国家神道の位置付けをみれば誤文とわかる。平易。

問2 山崎闇斎の思想についての基礎的基本的な知識に基づき、資料から読み取れることを確認する読解力の間。朱子学者であり神道家であること、敬と義を原理とする倫理を説いたこと、厳格な修養主義をとること、垂加神道をとらえたこと等の基礎的基本的な知識からも正答①に至る。

問3 叡尊についての基礎的基本的な知識を確認する。戒律を重んじる真言律宗を復興したことを知っていれば正答④を選べる。

問4 資料の読解力を問う。しかし、実際は福沢諭吉の思想を理解していれば、選択肢だけを見ても正答は④とわかる。せつかく資料として『学問のすゝめ』の一節を示すのであれば基礎的基本的な知識と読解力をあわせて発揮してこそ正答に至ることのできる間をつくるべきではないか。

第3問 西洋哲学についての問題。

問1 機械論的自然観に関して、ガリレイ、ニュートン、デカルトおよびコペルニクスについての基礎的基本的な知識を問う。

問2 カントにおける理性の捉え方をレポートと称する文章にあてはめて選ぶ思考力判断力の間。

問3 実存主義に関して、キルケゴールとハイデガーの思想についての基礎的基本的な知識を問う。

問4 第3問全体のまとめとしての間。読解力を問う。

第4問 現代倫理や青年期についての間。

問1 異文化異民族との関わり方について基礎的基本的な知識を問う。半ば常識を問う。

問2 アリエスとルソーの思想についての基礎的基本的な知識を問う。「小さな大人」と「第二の誕生」というキーワードでわかる。平易。

問3 ヌスバウム『女性と人間開発』の一節から内容を読み取り力を問う。

問4 ふたつの会話文の読解に基づき適切な表現を選ぶ思考力判断力の間。

第5問 高校生が大学教員による出張講義に参加したという設定で政治のしくみとはたらきの変容に関して、主権、権力分立、地方自治、環境、国際政治について問う。

問1 主権について基礎的基本的な知識を問う。ボダン『国家論』や国家の三要素あるいは主権のもつ内的最高性と外的独立性について問う。

問2 地方自治について基礎的基本的な知識を問う。構造改革特区、二元性、広域連合、三位一体の改革が問われた。

問3 公害や環境問題について、環境影響評価法、石綿による健康被害、大阪空港騒音訴訟、輦の浦景観権訴訟が問われた。

問4 NGOが主導的役割を果たした多国間条約としてクラスター爆弾禁止条約と対人地雷全面禁止条約を問う。NGOの台頭はウェストファリア・システムの変化を考えさせるうえで重要であり、「政治・経済」の国際政治分野の学習に配慮した出題である。

問5 地域紛争について基礎的基本的な知識を問う。4つの事例に共通した内容を4つの選択肢から選ぶ。

問6 国連安保理決議について3つの資料を読み、各国の反応と安保理の議決方式を併せて考えて解く。時間はかかるが平易な間。

第6問 大学の「経済学入門」シラバスを想定して経済分野に関して、経済政策、労働力人口と少子高齢化、戦後日本経済史、日銀「短観」の読み取り、日米独の比較、価格維持政策、経済思想についての基礎的基本的な知識と思考力判断力を問う。

問1 人口について表を見て考えて解く問。2006年約1,750万人から2018年約1,550万人に減少しているという特徴からイは③と推測される。ウとエは2006年から2018年に増えているものの2008年と2010年を比べて減っている、すなわちリーマンショックの影響を受けていることからウは①か②、影響を受けていないのが④と推測される。アとイは3,000万人台と2,000万人台、増加傾向と減少傾向、問題文の囲みの説明とからアは①、ウは②とわかる。慌てることなく落ち着いて考えれば、高校生の力で正答は得られる。

問2 テレビ欄と称するその時々を経済情勢を反映するテレビ番組の概要を示す4つの資料を時代順に並べ替えることで、戦後日本経済史の基礎的基本的な知識を問う。①はWTO設立から2年、日本版金融ビッグバン、ソ連崩壊から5年とあることから1996年、②はTPP12か国署名、日銀のマイナス金利導入発表、英のEU離脱の国民投票実施を発表とあるので2016年、③は日銀の量的緩和政策の導入発表、シンガポールとのEPAを今年中の締結をめざすとあることから2001年、④は英のビッグバン、GATTの農業分野交渉、前川レポートの公表とあることから1986年、とわかる。

問3 日銀「短観」の読み取り。平易。

問4 食料自給率、国民負担率、二酸化炭素排出量の割合および公債依存度についての日米独の比較。落ち着いて考えれば正答は容易だが、意外とてこずるかもしれない。特徴ある数字に着目するとアのBで131がある。これでBが食料自給率とわかり、アが米、イが独、ウが日と決まる。続けてCの独が-1.6、日が33.9で、Cが公債依存度とわかる。残るところでA国民負担率、D二酸化炭素排出量の割合と見えてくる。

問5 証券会社の業務についての基礎的基本的な知識を問う。

問6 アダム・スミスとカール・マルクスの経済思想について、両者の基礎的基本的な考え方を理解していれば容易に解ける。ア-A-カール・マルクス、イ-B-アダム・スミス。

第7問 高校生がグループ発表の準備をしているという想定で、少子高齢化社会の影響に関して、賃金と労働力需給、インフレ・デフレと日本経済史、賃金と雇用、年金制度改革、司法と立法の関係、少子化等について、基礎的基本的な知識を確認し、確かな知識に基づく思考力判断力を問う。

問1 インフレやデフレについての基礎的基本的な知識を踏まえ、完全失業率とインフレ率のふたつのグラフから1980年以後の日本経済の状況を読み解く思考力判断力の問。出題者の意図とは正反対に多くの高校生にとっては知識の問としてとらえ正答を得たであろう。①減税すればインフレ、増税すればデフレが基本であり、増税でのインフレをディマンド・プル・インフレーションとは言わない。②完全失業率とインフレ率との関係はフィリップス曲線で表され、不況下でのインフレをいうスタグフレーションとは異なる。③失業率上昇をインフレーションとは言わないという表記の問題で誤文とわかる。

問2 賃金と雇用慣行について、賃金水準および労働者が生み出す価値と勤続年数の関係を示す図を見ながら考える思考力判断力の問。実際のところ高校生は選択肢を読んで知識の問として捉え正答を選ぶと考えられる。すなわち、①は年功序列賃金制度の特徴そのものであり知識の問として選ぶだろう。②短期間で退職する場合は成果主義賃金の方が有利であり誤文。③成果主義ではないので生み出す価値にあわせて賃金が上がるわけではない④年功序列賃金制度は一企業への定着が前提である。

問3 2000年以後の年金制度改革についての基礎的基本的な知識を問う。ア基礎年金国庫負担率を3分の1から2分の1に引き上げたのは平成21（2009）年。イ少子高齢化の進展に伴い保険料負担が軽くなることはあり得ない。ウ従前の物価スライドからマクロ経済スライドに変えたのは平成16（2004）年。

問4 少子化の現状を示すふたつの図の読み取りの問。会話文に基づき図を追えば下線部の正誤は判定できる。もっとも高校生からすれば問題の形から④が正答と見抜ける。すなわち、会話文では相手の指摘が間違っていれば次の会話の中で間違いが指摘されるわけで、会話文の中で相手からの誤読との指摘がない以上、問題のつくりかたから見て最後の指摘に誤りが含まれないと問が成立しないと考えられる。